

## 第2回誠愛院内勉強会

日時 : 平成21年5月19日 17:30~  
場所 : 誠愛リハビリテーション病院 研修室  
講師 : 九州大学病院 救命救急センター 講師 杉森 宏

テーマ : 「救急患者への対応 BLS その他 基本的な考え方と手技」

### 『抄録』

昨今公共の場におけるAED(automated extracorporeal defibrillator;体外式自動除細動器)の設置が進み、心肺停止患者に対する一刻も早い蘇生処置開始が生命予後改善に重要であることが、一般常識として浸透しつつある。ましてや、医療機関において急変患者に対する備えを常時行っておくことはいうまでもないことであり、当院もその例外ではない。リハビリテーションに特化した当院において、心肺蘇生を要するような急変患者に対処する頻度は低いが、さまざまな基礎疾患を併せ持ち、かつそれらが容易に重篤化する可能性のある患者が多いため、常に急変のリスクを意識しておくべきであり、いざというときに何をなすべきか知っておく必要がある。

心肺停止は脳・肺・心臓の互いの連携に破綻が生じることにより発生し、この三者を一体として治療していくことが救命救急の中核である。呼吸と脈および意識の状態から急変患者の生命の危険を素早く判断するところからBLS(basic life support)はスタートし、その後の一連の行動(救命の連鎖)が迅速かつ的確に進められねばならない。九大救命救急部のデータによると、呼吸障害や縊頸の場合と比べて、(当院で遭遇する可能性が高い)循環障害による心肺停止に対する蘇生後の予後は比較的良好であるので、当院におけるBLSの重要性はより高いと言える(蘇生手技やAEDの使用法の概略についてはスライド参照;成人と小児で異なるところがあるので注意)。

AHA(American heart association)が刊行している「心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン」では、BLSおよびACLS(Advanced cardiopulmonary life support)についての体系的な解説がなされている。これを各部署に配布するとともに、各職員はAHA主催のBLSおよびACLSコース受講を検討されたい。